

マイコンカーラリー応用キット

アナログセンサ基板

TypeS Ver.3

製作マニュアル

(R8C/38A 版)

本マニュアルで説明しているセット内容	アナログセンサ基板 TypeS Ver.3
本基板の対象マイコンボード	RY_R8C38 ボード(R8C/38A マイコン)
本基板のプログラムについての説明	アナログセンサ基板 TypeS・モータドライブ基板 TypeS Ver.3 プログラム解説マニュアル(R8C/38A 版) ※アナログセンサ基板 TypeSとアナログセンサ基板 TypeS Ver.3はプログラムで互換があります(ただし、PD 値は異なることがあります)。

1.00 版
2016.07.04
株式会社日立ドキュメントソリューションズ

注意事項 (rev.6.0H)

著作権

- ・本マニュアルに関する著作権は株式会社日立ドキュメントソリューションズに帰属します。
- ・本マニュアルは著作権法および、国際著作権条約により保護されています。

禁止事項

ユーザーは以下の内容を行うことはできません。

- ・第三者に対して、本マニュアルを販売、販売を目的とした宣伝、使用、営業、複製などを行うこと
- ・第三者に対して、本マニュアルの使用権を譲渡または再承諾すること
- ・本マニュアルの一部または全部を改変、除去すること
- ・本マニュアルを無許可で翻訳すること
- ・本マニュアルの内容を使用しての、人命や人体に危害を及ぼす恐れのある用途での使用

転載、複製

本マニュアルの転載、複製については、文書による株式会社日立ドキュメントソリューションズの事前の承諾が必要です。

責任の制限

本マニュアルに記載した情報は、正確を期すため、慎重に制作したのですが万一本マニュアルの記述誤りに起因する損害が生じた場合でも、株式会社日立ドキュメントソリューションズはその責任を負いません。

その他

- ・本マニュアルに記載の情報は本マニュアル発行時点のものであり、株式会社日立ドキュメントソリューションズは、予告なしに、本マニュアルに記載した情報または仕様を変更することがあります。製作に当たりましては、最新の内容を確認いただきますようお願いいたします。
- ・すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

連絡先

株式会社 日立ドキュメントソリューションズ

〒135-0016 東京都江東区東陽六丁目 3 番 2 号 イースト 21 タワー

E-mail: himdx.m-carrally.dd@hitachi.com

目次

1. 概要.....	1
2. 仕様.....	2
2.1 仕様.....	2
2.2 回路図.....	3
2.3 基板寸法.....	4
2.4 センサ位置.....	4
2.5 10ピンコネクタ.....	5
3. 組み立てに必要な工具類.....	6
4. 基板の組み立て.....	8
4.1 部品表.....	8
4.2 部品面.....	10
4.3 半田面.....	10
4.4 チップ抵抗の取り付け.....	11
4.5 チップ LED の取り付け その1.....	13
4.6 チップ LED の取り付け その2.....	14
4.7 チップボリュームの取り付け.....	15
4.8 チップ積層セラミックコンデンサの取り付け.....	16
4.9 フォトインタラプタの取り付け.....	17
4.10 変調型フォトセンサ (S7136) の取り付け.....	18
4.11 赤外 LED の取り付け その1.....	19
4.12 赤外 LED の取り付け その2.....	21
4.13 変調型フォトセンサ (S6846) の取り付け.....	22
4.14 積層セラミックコンデンサの取り付け.....	23
4.15 10P ストレートタイプオスコネクタの取り付け.....	24
4.16 完成.....	25
5. 動作確認.....	26
5.1 ワークスペースのインストール.....	26
5.2 プロジェクト.....	28
5.3 接続.....	29
5.4 ビルド、書き込み.....	30
5.5 Tera Term などの通信ソフトを立ち上げセンサの確認.....	30

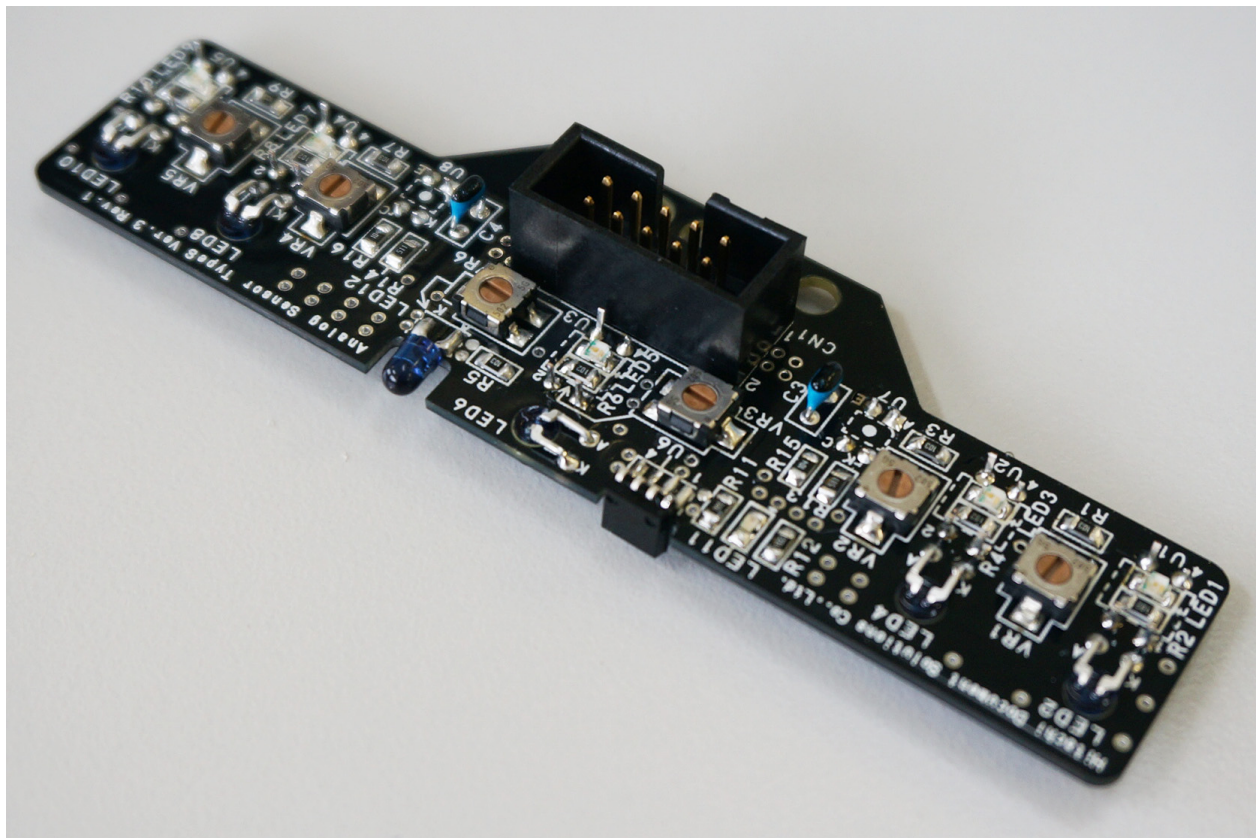
1. 概要

1. 概要

本マニュアルは、2016年6月に新規設計されたマイコンカーラー応用キットのアナログセンサ基板 TypeS Ver.3 の製作マニュアルです。

本基板の特徴を、下記に示します。

- ・基板を黒くして、センサの誤動作を少なくしている
- ・**コースの白、灰、黒色を検出するアナログセンサを2個搭載**
- ・コースの白、黒色を検出するデジタルセンサを5個搭載(左右2個ずつ、中心1個)
- ・スタートバーが開いたことを検出するセンサを1個搭載
- ・センサ信号は、マイコン直結



▲完成例

2. 仕様

2. 仕様

2.1 仕様

下記に、アナログセンサ基板 TypeS Ver.3 の仕様を示します。参考までに、その他のバージョンのアナログセンサ基板 TypeS の仕様も掲載します。

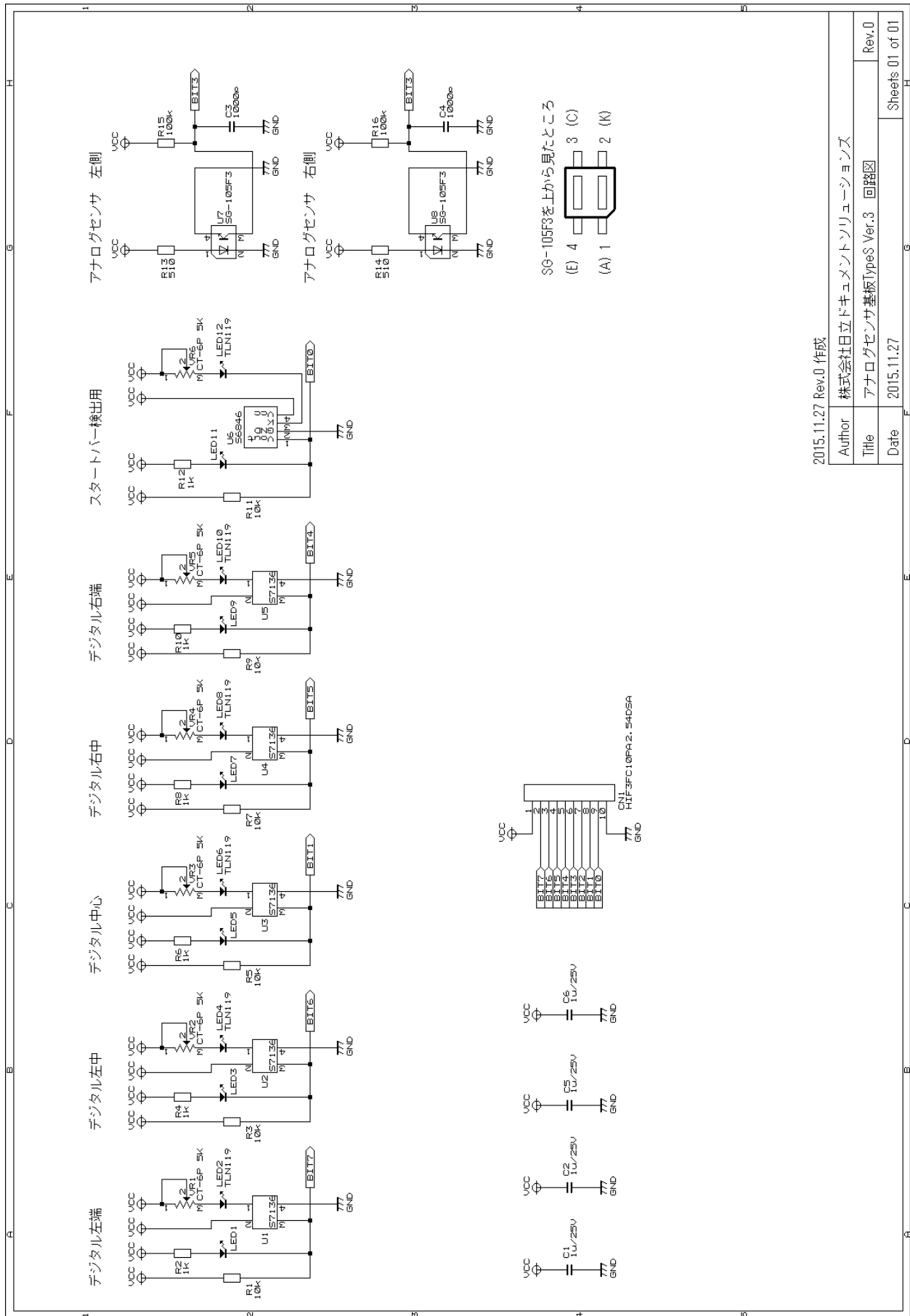
名称	アナログセンサ基板 TypeS Ver.3	アナログ センサ基板 TypeS Ver.2 (参考)	アナログ センサ基板 TypeS (参考)
略称	アナログセンサ基板 S3	アナログセンサ 基板 S2	アナログセンサ 基板
基板枚数	1 枚	←	←
コースを見るデジタルセンサの個数	5 個	←	←
コースを見るアナログセンサの個数	2 個	←	←
スタートバーを見るセンサの個数	1 個	←	←
アナログセンサの素子	コーデンシ(株) SG-105F3	シャープ(株) GP2S700HCP	シャープ(株) GP2S40J0000F
デジタルセンサの信号反転方法	プログラムで反転	←	←
電圧	DC5.0V±10%	←	←
重量 (基板のみ)	約 3g	←	←
重量 (完成品の実測)	約 8g	←	←
レジスト (基板色)	黒色	←	←
基板寸法	W94×D28×厚さ 1.2mm	←	←
部品実装時の寸法 (実測)	最大 W94×D28×H12mm	←	←

※重量は、リード線の長さや半田の量で変わります

「アナログセンサ基板 TypeS」、「アナログセンサ基板 TypeS Ver.2」、「アナログセンサ基板 TypeS Ver.3」は、アナログセンサの素子が変わっただけで、他はほとんど変更ありません。

2. 仕様

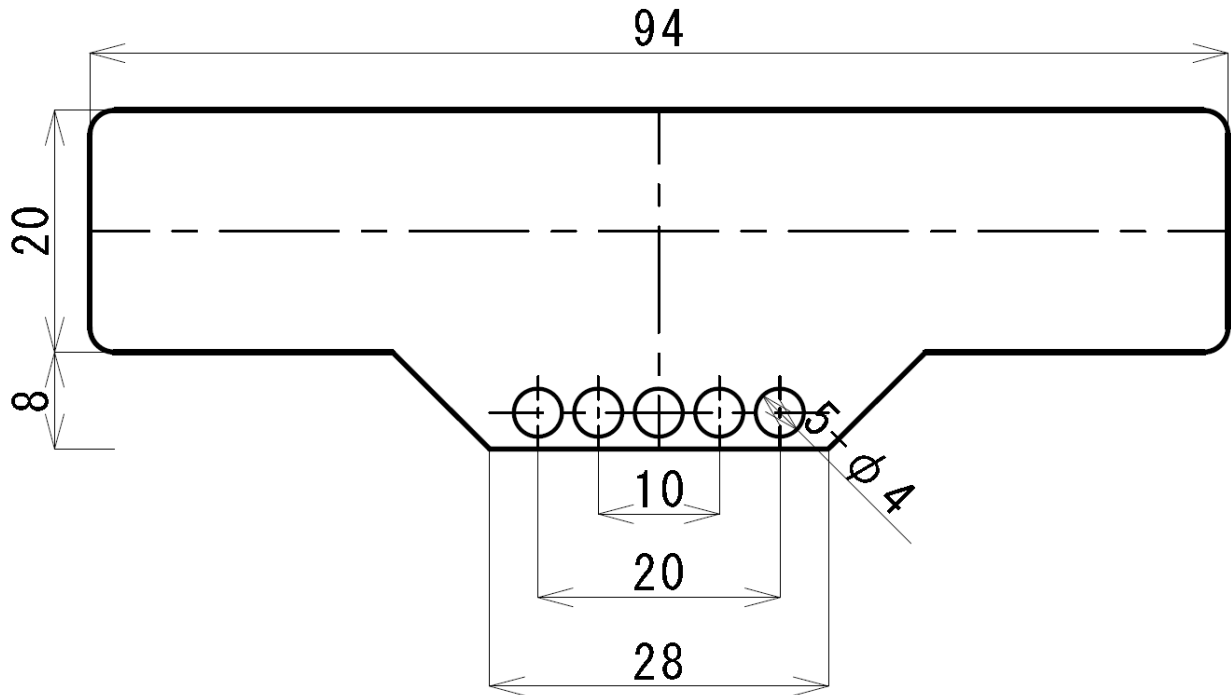
2.2 回路図



2. 仕様

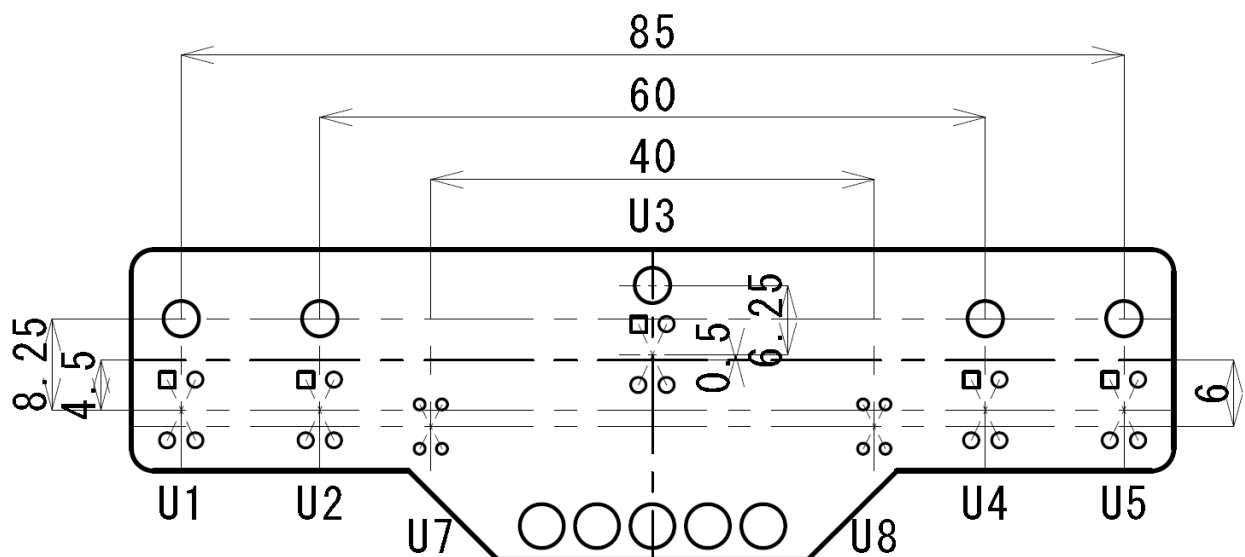
2.3 基板寸法

基板の取り付け用の穴が 5 個あります。この穴を使って、アナログセンサ基板 TypeS Ver.3 を固定してください。



2.4 センサ位置

下記に、アナログセンサ 2 個、デジタルセンサ 5 個の基板上の位置を示します。

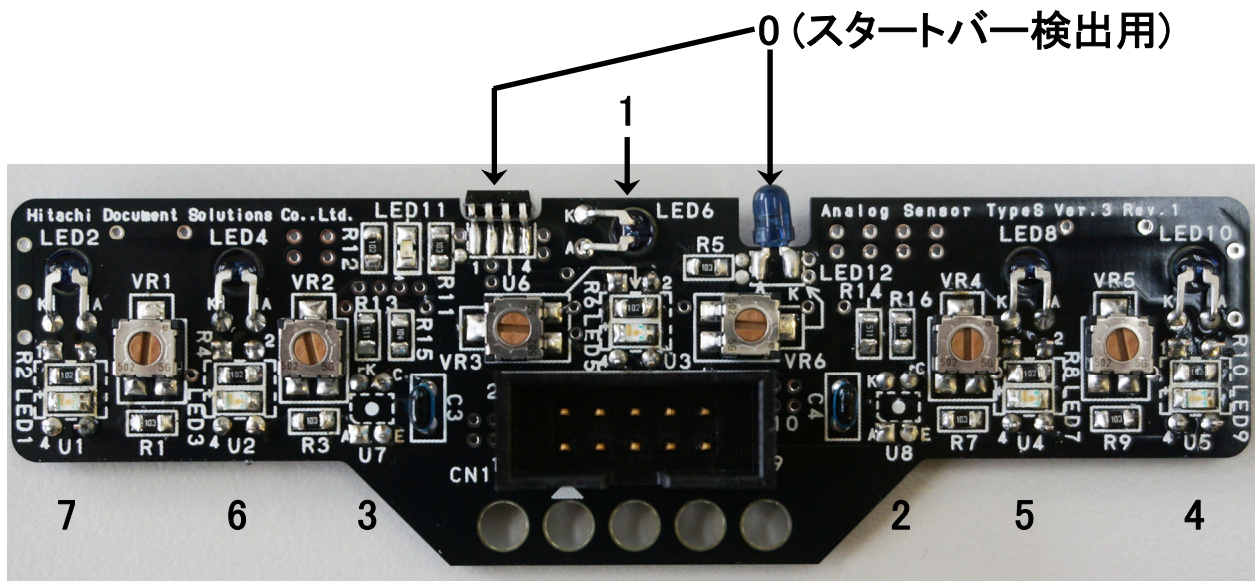


※U1～U5…デジタルセンサ
U7～U8…アナログセンサ

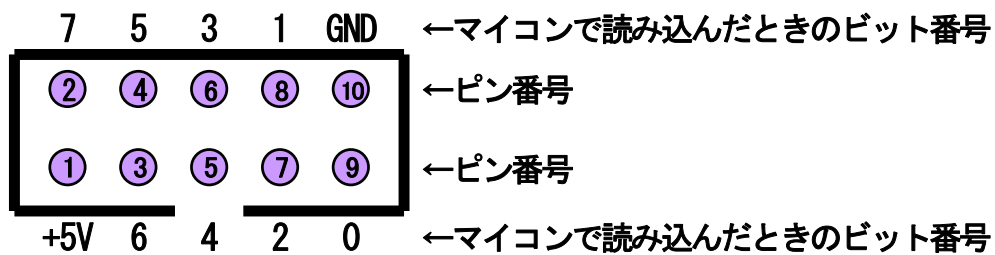
2. 仕様

2.5 10ピンコネクタ

各センサの信号が、10ピンコネクタ(CN1)から出力されます。



※数字はマイコンで読み込んだときのビット番号



コネクタを上から見たところ

番号	方向	RY_R8C38 ボードの CN3 に 取り付けられたときのポート	詳細	“0”(0V)	“1”(5V)
1	—	+5V	+5V		
2	OUT	P0_7	7 センサ信号の出力 (左から 1 番目)	白色	黒色
3	OUT	P0_6	6 センサ信号の出力 (左から 2 番目)	白色	黒色
4	OUT	P0_5	5 センサ信号の出力 (右から 2 番目)	白色	黒色
5	OUT	P0_4	4 センサ信号の出力 (右から 1 番目)	白色	黒色
6	OUT	P0_3	3 センサ信号の出力 (アナログ左)	0~5V のアナログ出力	
7	OUT	P0_2	2 センサ信号の出力 (アナログ右)	0~5V のアナログ出力	
8	OUT	P0_1	1 センサ信号の出力 (中心)	白色	黒色
9	OUT	P0_0	0 センサ信号の出力 (スタートバー)	白色	黒色
10	—	GND	GND		

3. 組み立てに必要な工具類

3. 組み立てに必要な工具類

基板の組み立てに必要な工具類を、下表に示します。

<p>半田</p>		<p>部品を基板に半田付けするときに使用します。マイコンカーラ リー販売では、下記を取りそろえています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・M-S329:糸半田(千住金属 スパークルソルダ φ0.6 150g) ・M-S330:糸半田(千住金属 スパークルソルダ φ0.8 150g) ・M-S331:糸半田鉛フリー(千住金属 ESCF3M705 φ0.6 100g) ・M-S332:糸半田鉛フリー(千住金属 ESCF3M705 φ0.8 100g)
<p>ミニチュア ニッパ</p>		<p>リード線を切るのに使います。</p>
<p>ミニチュア ペンチ</p>		<p>リード線を曲げたり、部品を固定したりするのに使います。</p>
<p>ワイヤ ストリッパ</p>		<p>線の被覆を剥くのに使います。</p> <p>※写真はホーザン(株)の P-946 です。現在販売されているのは、P-960 です。</p>
<p>圧着 ペンチ</p>		<p>コネクタのコンタクトピンを圧着するのに使います。</p> <p>※写真はホーザン(株)の P-706 です。</p>
<p>ピンセット</p>		<p>部品を持つのに使います。</p>

3. 組み立てに必要な工具類

<p>半田こて</p>		<p>部品を半田付けするのに使います。50～100W 程度の半田こてを用意します。</p> <p>※写真は、HAKKO FX600-02 です。手元のダイヤルで、200℃、270℃、320℃、370℃、420℃、500℃に温度調節することができる半田こてです。マイコンカーラー販売サイト (https://www2.himdx.net/mcr) で販売しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●M-S327: はんだこて(HAKKO FX-600-02) ●M-S328: はんだこて台(HAKKO 633-01)
<p>半田こて台</p>		<p>半田こてを置くときに使います。 写真は、マイコンカーラー販売の「M-S328 はんだこて台 (HAKKO 633-01)(1 台)」です。</p>
<p>はさみ</p>		<p>セットの袋を切るなどで使います。</p>
<p>テスタ</p>		<p>回路の導通チェックなどをします。</p>

4. 基板の組み立て

4. 基板の組み立て

4.1 部品表

部品番号	名称	型式	写真	メーカー	数量
	本体基板	ANASENSOR_S_VER3_REV1 94×28×t1.2mm		(株)ドキュメントソリューションズ	1
R1,R3,R5,R7,R9,R11	チップ抵抗	10kΩ 2125 サイズ	 103 と書かれています	各社	6
R2,R4,R6,R8,R10,R12	チップ抵抗	1kΩ 2125 サイズ	 102 と書かれています	各社	6
R13,R14	チップ抵抗	510Ω 2125 サイズ	 511 と書かれています	各社	2
R15,R16	チップ抵抗	100kΩ 2125 サイズ	 104 と書かれています	各社	2
LED1,LED3,LED5,LED7,LED9	チップ LED	PARA LIGHT 青色チップ LED 2012 サイズ または、同サイズの違う色のチップ LED		各社	5
LED11	チップ LED	赤色チップ LED 1608 サイズ または、同サイズの違う色のチップ LED		各社	1

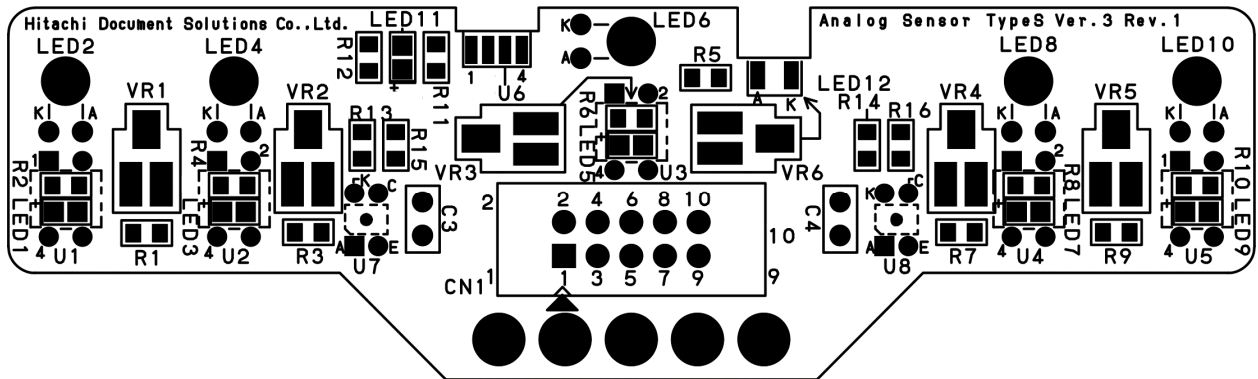
4. 基板の組み立て

部品番号	名称	型式	写真	メーカー	数量
VR1,VR2, VR3,VR4, VR5,VR6	チップ ボリューム	ST-4EB 5kΩ	 502 と書かれています	日本電産コパ ル電子(株)	6
C1,C2,C5, C6	チップ積層 セラミック コンデンサ	チップ積層セラミック コンデンサ 1μF 25V		各社	4
U1,U2,U3, U4,U5	変調型 フォトセンサ	S7136	 短いピンが 4pin	浜松フォトニク ス(株)	5
U7,U8	フォト インタラプタ	SG-105F3	 角が取れている側が A	コーデンシ (株)	2
LED2,LED4, LED6,LED8, LED10, LED12	赤外 LED	TSAL4400	 ←灰色(半透明) K(短) A(長)	Vishay 社	6
U6	変調型 フォトセンサ	S6846	 向きがあります	浜松フォトニク ス(株)	1
C3,C4	積層セラミック コンデンサ	1000pF	 102 と書かれています	各社	2
CN1	10P ストレートタ イプオスコネク タ	HIF3FC10PA2.54DSA	 ▼マークのピンが1ピン	ヒロセ電機(株)	1

4. 基板の組み立て

4.2 部品面

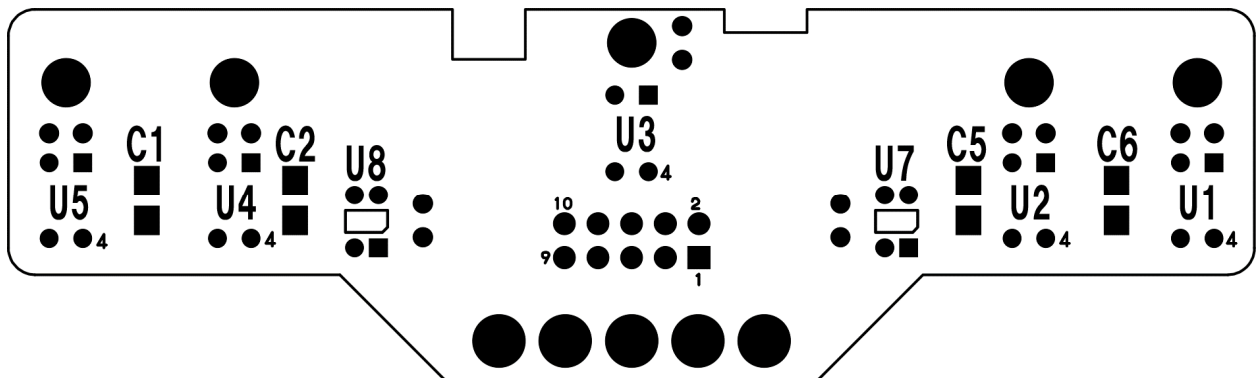
部品面は、白い文字のある面のことです。主にこの面から部品を取り付けます。



4.3 半田面




半田面は、白い文字の無い面です。下記部品は、半田面から取り付けます。

部品名	型式、仕様	番号
変調型フォトセンサ	S7136	U1,U2,U3,U4,U5 の 5 個
フォトインタラプタ	GP2S700HCP	U7,U8 の 2 個
チップ積層セラミックコンデンサ	1 μ F/25V	C1,C2,C5,C6 の 4 個

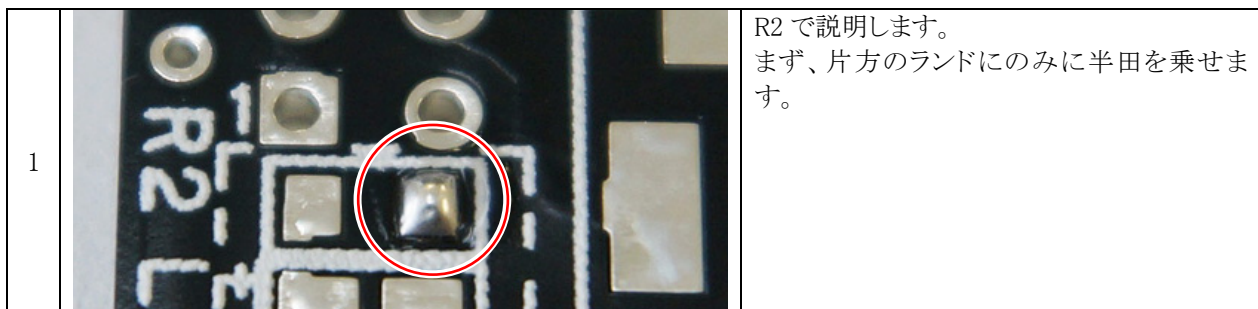
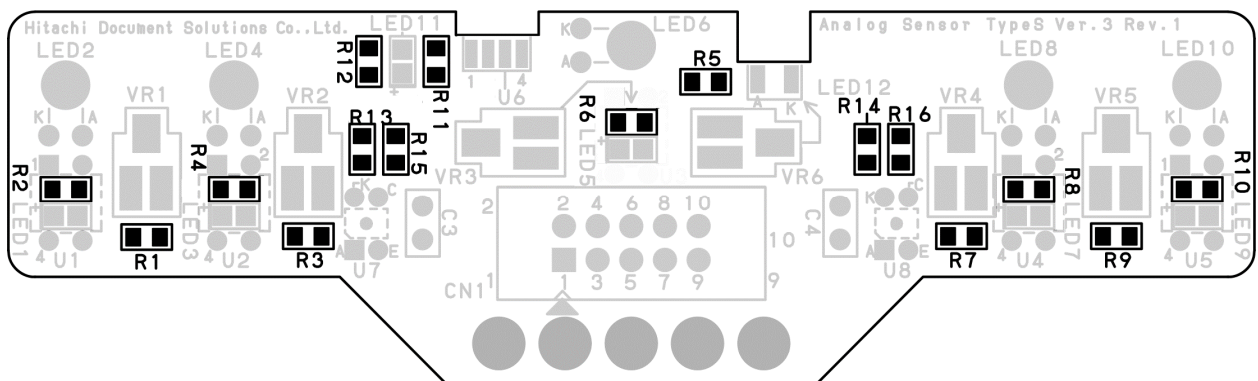


4. 基板の組み立て

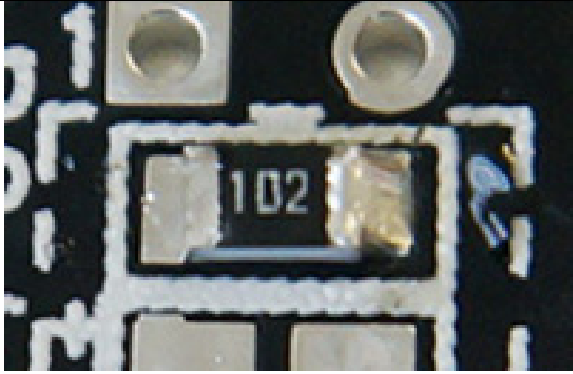
4.4 チップ抵抗の取り付け

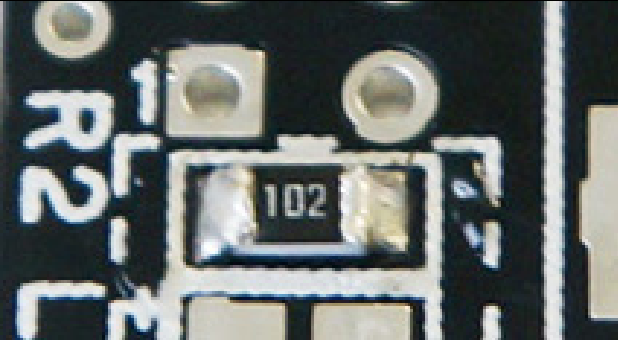
部品番号	名称	型式	写真	メーカー	数量
R1,R3,R5, R7,R9,R11	チップ抵抗	10kΩ 2125 サイズ	 103 と書かれています	各社	6
R2,R4,R6, R8,R10,R12	チップ抵抗	1kΩ 2125 サイズ	 102 と書かれています	各社	6
R13,R14	チップ抵抗	510Ω 2125 サイズ	 511 と書かれています	各社	2
R15,R16	チップ抵抗	100kΩ 2125 サイズ	 104 と書かれています	各社	2

チップ抵抗を半田付けします。抵抗値を間違えないよう取り付けてください。



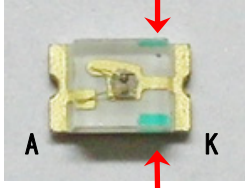
4. 基板の組み立て

2		<p>チップ抵抗をピンセットなどで持ち、先ほど半田を乗せたランドを半田ごてで温めながら、チップ抵抗の位置を調整します。チップ抵抗が浮かないように、位置を調整してください。</p> <p>調整できたら、もう片方のランドをはんだ付けします。</p>
---	---	--

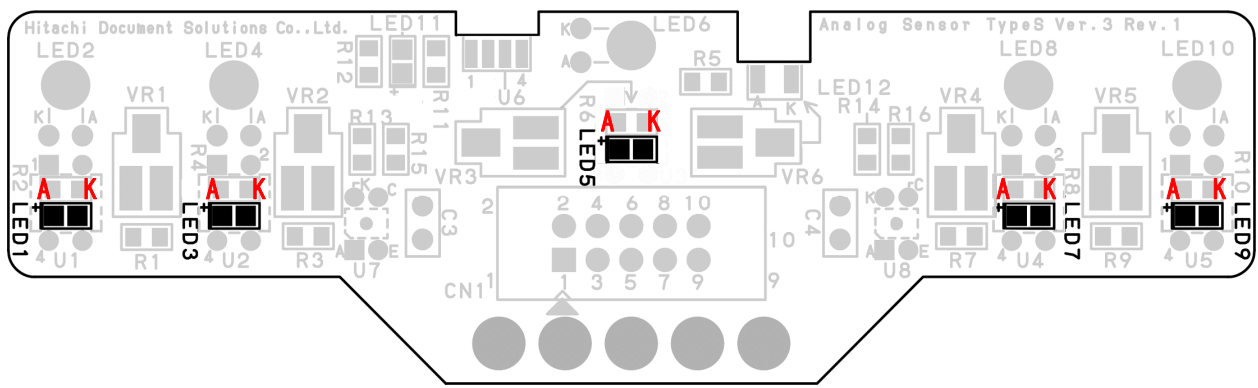
3		<p>完成です。</p>
---	---	--------------

4. 基板の組み立て

4.5 チップ LED の取り付け その1

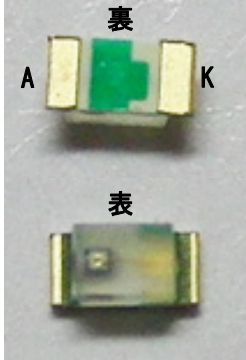
部品番号	名称	型式	写真	メーカー	数量
LED1,LED3, LED5,LED7, LED9	チップ LED	PARA LIGHT 青色チップ LED 2012 サイズ または、同サイズの違 う色のチップ LED		各社	5

チップ LED を取り付けます。向きがありますので間違えないようにしてください。

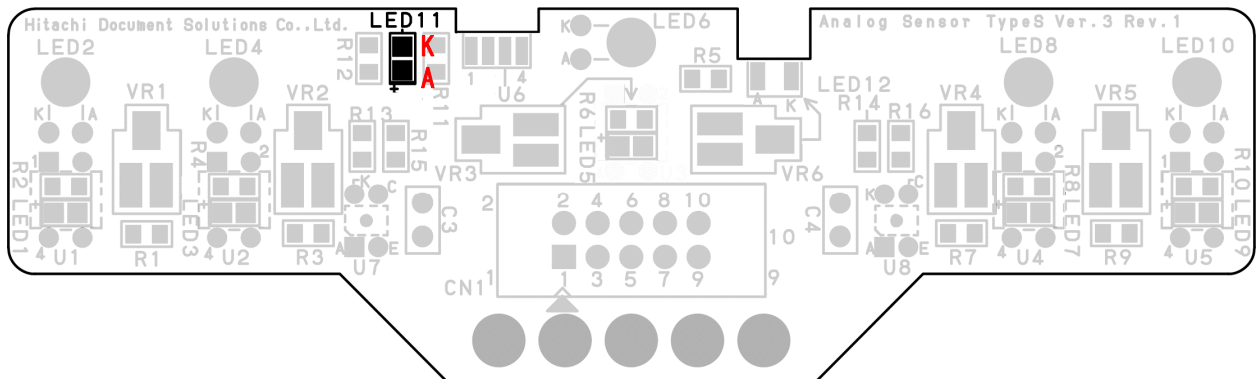


4. 基板の組み立て

4.6 チップ LED の取り付け その2

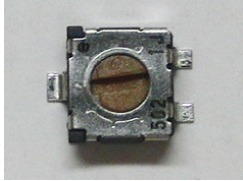
部品番号	名称	型式	写真	メーカー	数量
LED11	チップ LED	赤色チップ LED 1608 サイズ または、同サイズの違 う色のチップ LED		各社	1

チップ LED を取り付けます。向きがありますので間違えないようにしてください。

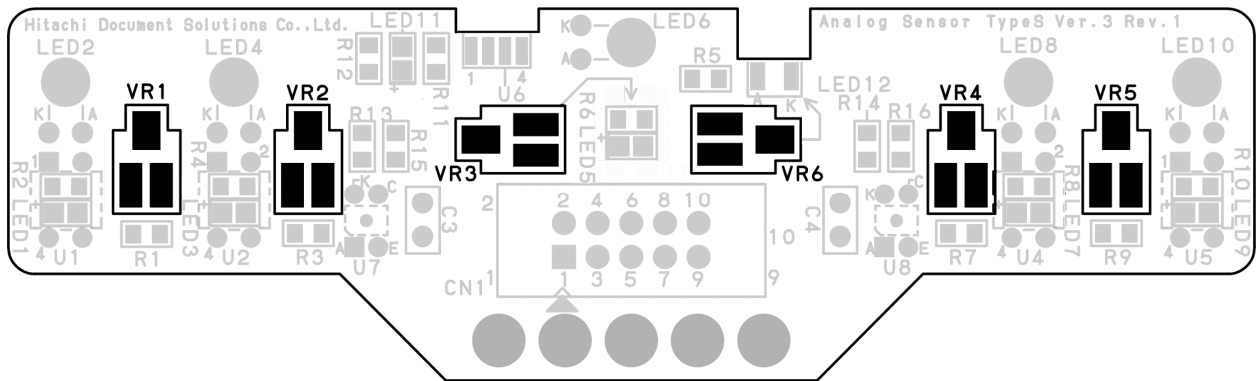


4. 基板の組み立て

4.7 チップボリュームの取り付け

部品番号	名称	型式	写真	メーカー	数量
VR1,VR2, VR3,VR4, VR5,VR6	チップ ボリューム	ST-4EB 5kΩ	 502 と書かれています	日本電産コパ ル電子(株)	6

チップボリュームを取り付けます。向きがありますので間違えないようにしてください。

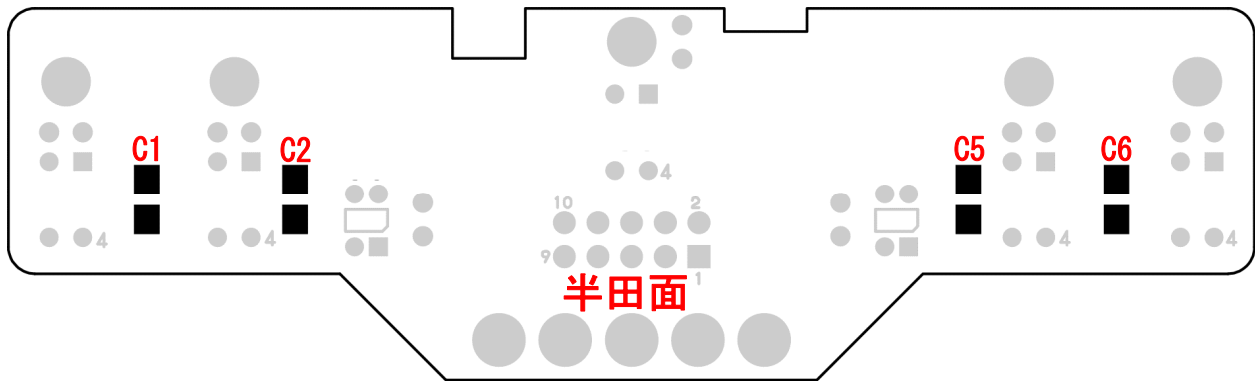


4. 基板の組み立て

4.8 チップ積層セラミックコンデンサの取り付け

部品番号	名称	型式	写真	メーカー	数量
C1,C2, C5,C6	チップ積層 セラミック コンデンサ	チップ積層セラミック コンデンサ 1 μ F 25V		各社	4

チップ積層セラミックコンデンサを**半田面**から取り付けます。

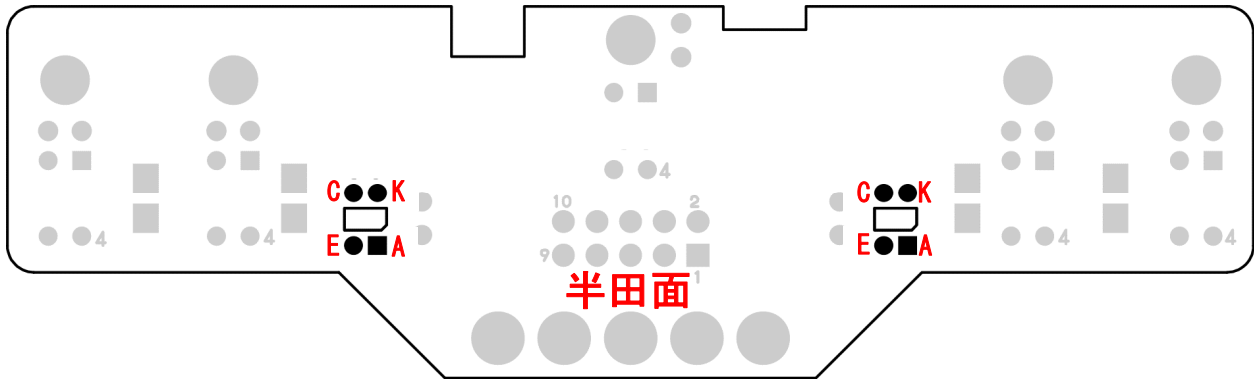


4. 基板の組み立て

4.9 フォトインタラプタの取り付け

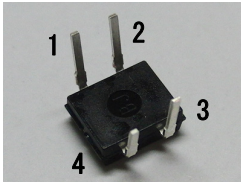
部品番号	名称	型式	写真	メーカー	数量
U7,U8	フォト インタラプタ	SG-105F3	 <p>角が取れている側が A</p>	コーデンシ (株)	2

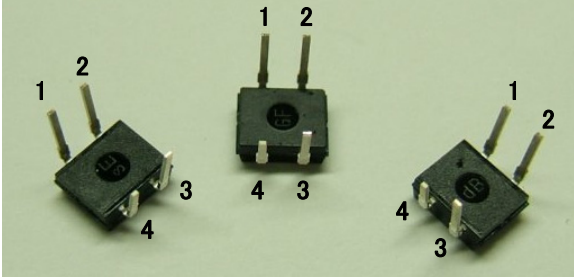
フォトインタラプタを**半田面**から取り付けます。向きがありますので間違えないようにしてください。



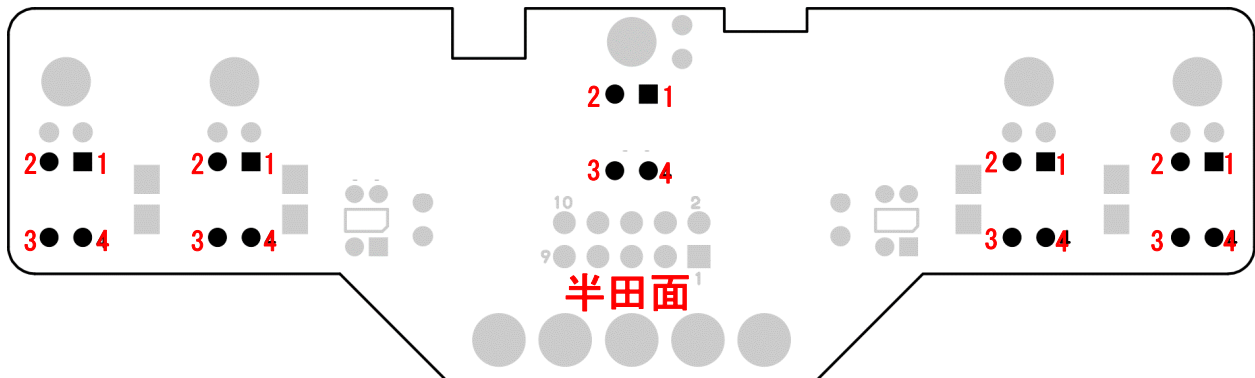
4. 基板の組み立て

4.10 変調型フォトセンサ(S7136)の取り付け

部品番号	名称	型式	写真	メーカー	数量
U1,U2,U3, U4,U5	変調型 フォトセンサ	S7136	 短いピンが4pinです。	浜松フォトニクス(株)	5

1		変調型フォトセンサには向きがあります。1～4ピンある素子で、4番ピンが一番短くなっています。
---	---	--

変調型フォトセンサを半田面から取り付けます。向きがありますので間違えないようにしてください。
4と書かれてるランドに、短いピンを差し込みます。



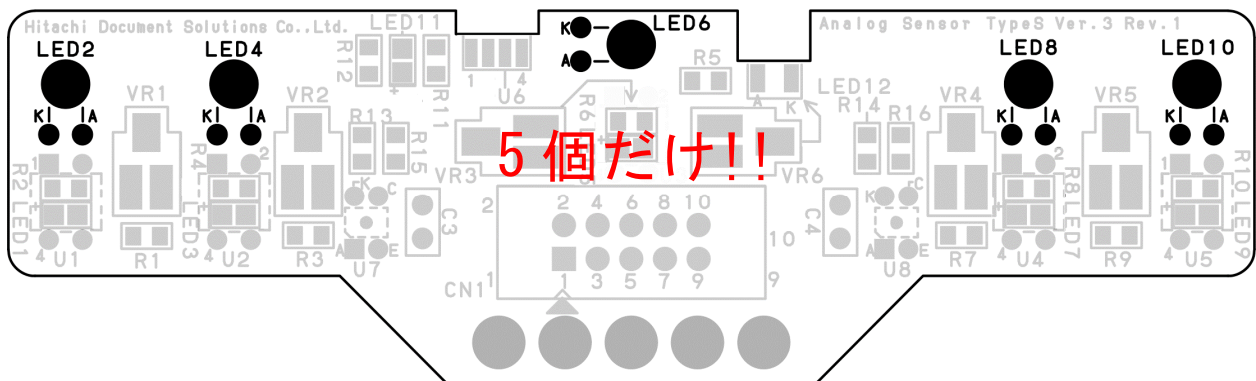
4. 基板の組み立て

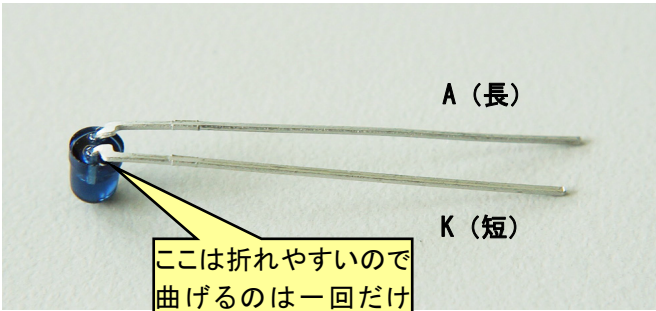
4.11 赤外 LED の取り付け その1

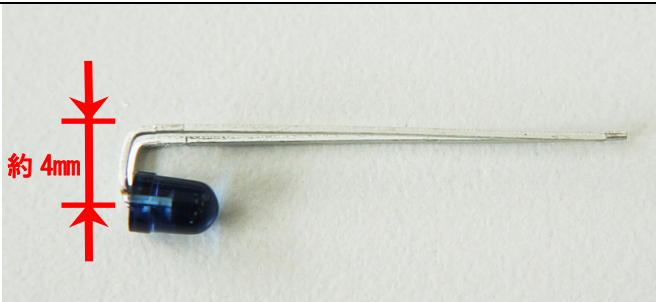
今回の加工は 5 個だけです。残りの 1 個は次で加工します。

部品番号	名称	型式	写真	メーカー	数量
LED2,LED4, LED6,LED8, LED10	赤外 LED	TSAL4400		Vishay 社	5

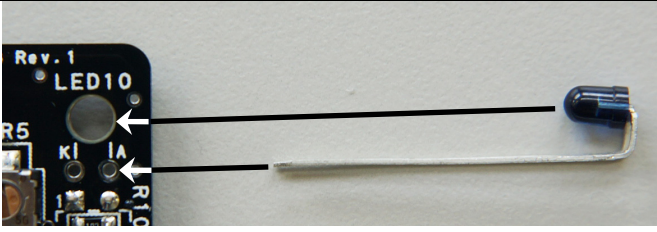
赤外 LED を部品面から取り付けます。向きがありますので間違えないようにしてください。

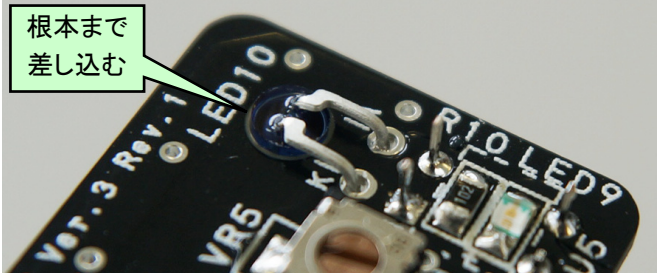


<p>5 個だけ!!</p> <p>1</p> 	<p>赤外 LED を根本から直角に曲げます。写真のように曲げます。</p>
--	--

<p>2</p> 	<p>曲げた根本から約 4mm 離れたところを、さらに直角に曲げます。</p>
--	---

4. 基板の組み立て

3		写真のように大きい穴に赤外LED部分を、ランドにリード線を差し込みます。
---	---	--------------------------------------

4		根本まで差し込み半田付けします。
---	---	------------------

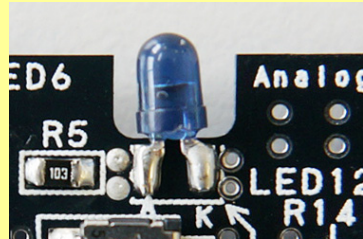
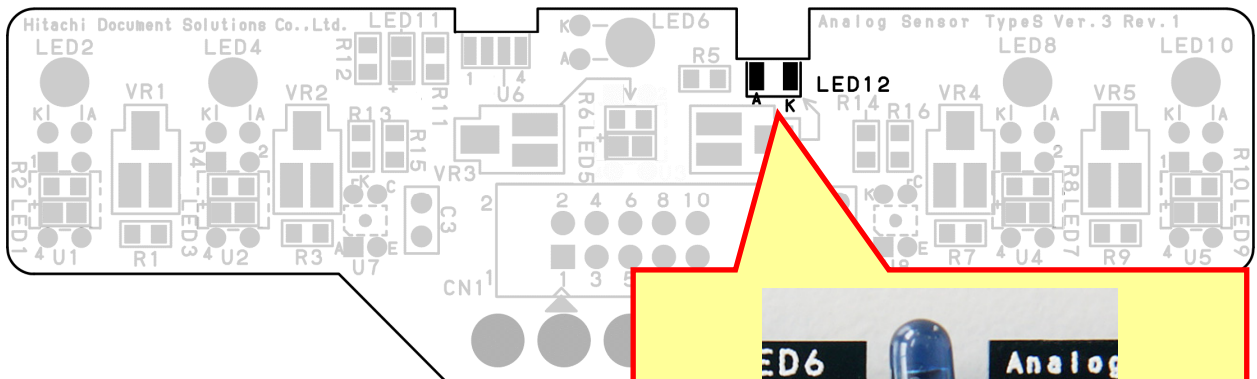
4. 基板の組み立て

4.12 赤外 LED の取り付け その2

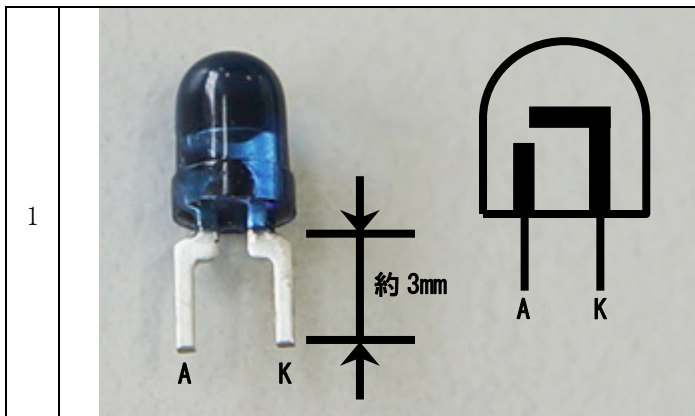
今回の加工は 1 個です。

部品番号	名称	型式	写真	メーカー	数量
LED12	赤外 LED	TSAL4400		Vishay 社	1

赤外 LED を部品面から取り付けます。向きがありますので間違えないようにしてください。



写真のようにはんだ付けします。
可能であれば、受光側の U6 に光が届きやすいように
ちょっとだけ左斜めに取り付けるとよいでしょう。




赤外 LED を根本から約 3mm のところで切ります。

アノード(A)、カソード(K)が分からなくなった場合は、LED の中が真っ直ぐな方が A、L 字型の方が K です。

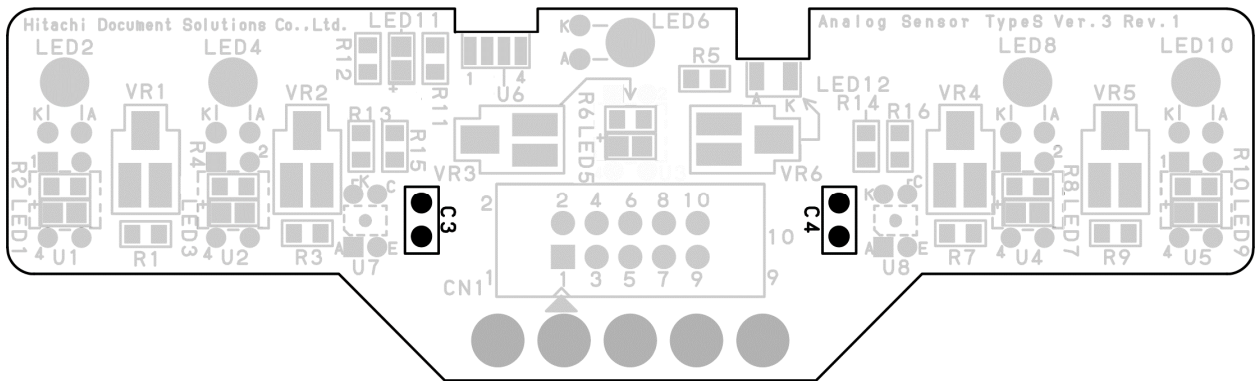
※今回の LED は、内部が L 字型の方が K です。異なる LED もありますので、違う LED を使う場合は必ずデータシートなどで確認してください。

4. 基板の組み立て

4.14 積層セラミックコンデンサの取り付け

部品番号	名称	型式	写真	メーカー	数量
C3,C4	積層セラミックコンデンサ	1000pF	 102 と書かれています	各社	2

積層セラミックコンデンサを取り付けます。

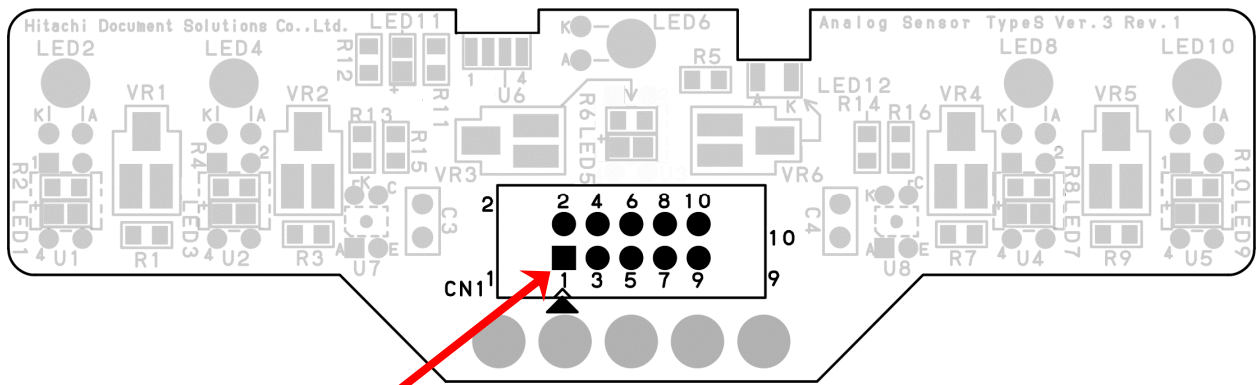


4. 基板の組み立て

4.15 10P ストレートタイプオスコネクタの取り付け

部品番号	名称	型式	写真	メーカー	数量
CN1	10P ストレートタイプオスコネクタ	HIF3FC10PA2.54DSA	 <p>▼マークのピンが1ピン</p>	ヒロセ電機(株)	1

10P ストレートタイプオスコネクタを取り付けます。向きがありますので間違えないようにしてください。

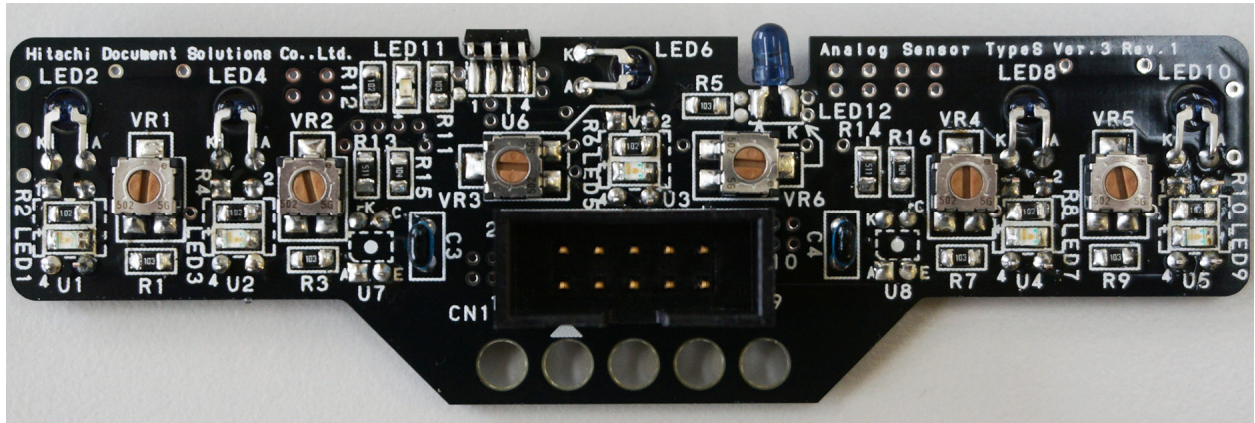


コネクタの▼マークを1ピンに合わせる

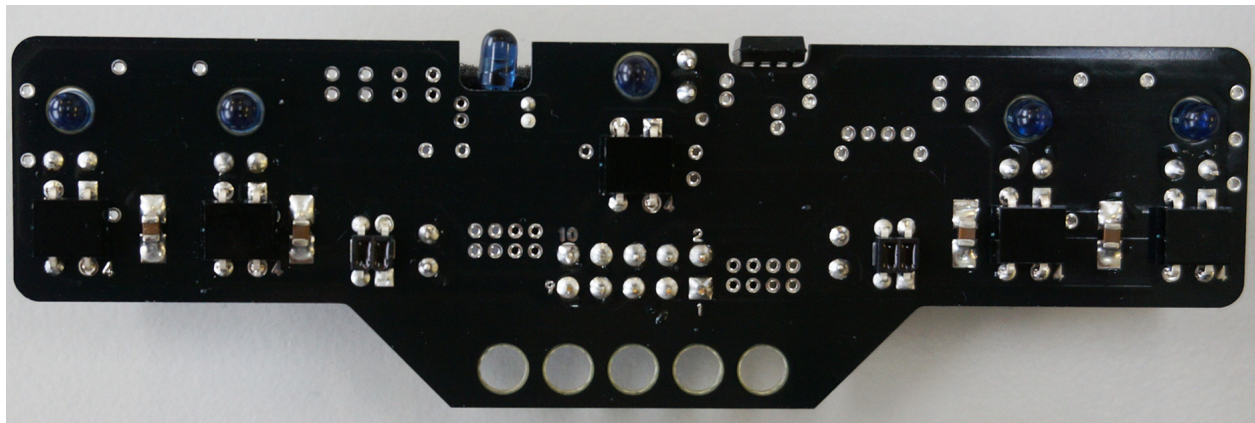
4. 基板の組み立て

4.16 完成

完成です。目視にて再度半田不良や部品の取り付け間違い、向きの確認をします。**必ず確認してください。**動作確認は次章で行います。



▲部品面




▲半田面

5. 動作確認

5. 動作確認

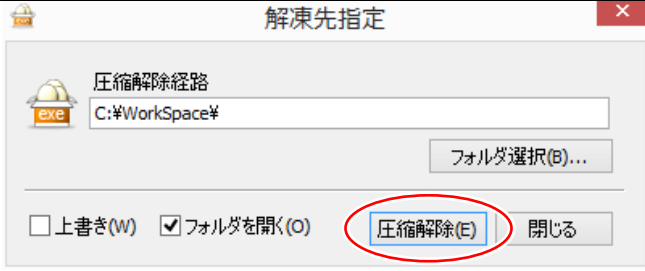
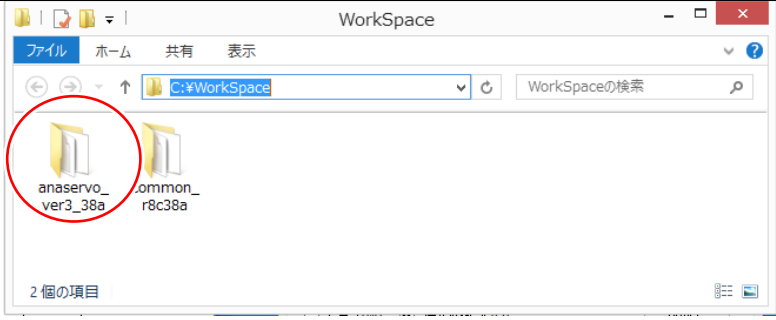
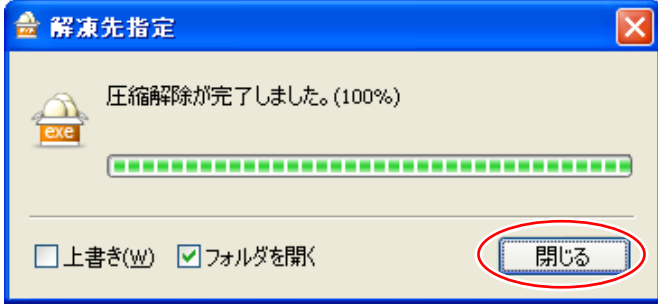
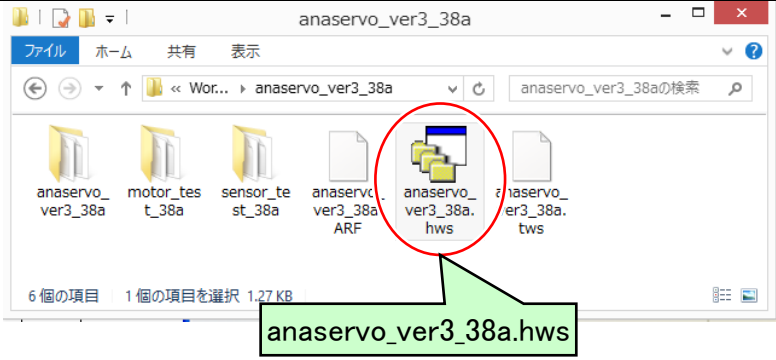
5.1 ワークスペースのインストール

1	 <p>The screenshot shows the Hitachi website's navigation menu. The 'ダウンロード' (Downloads) button is circled in red. Below the menu, there is a banner for 'モータドライブ基板 TypeS Ver.4.1 販売開始しました!' (Motor Drive Board TypeS Ver.4.1 Sales Start!).</p>	<p>マイコンカーラー販売サイト https://www2.himdx.net/mcr/</p> <p>にアクセスします。「ダウンロード」をクリックします。</p>
---	--	---

2	 <p>The screenshot shows the 'ダウンロード(R8C、RXマイコンに関する資料)' link circled in red. Below it, a list of links is shown, with 'TypeS基板に関する資料' circled in red.</p>	<p>「TypeS 基板に関する資料」をクリックします。</p>
---	--	----------------------------------

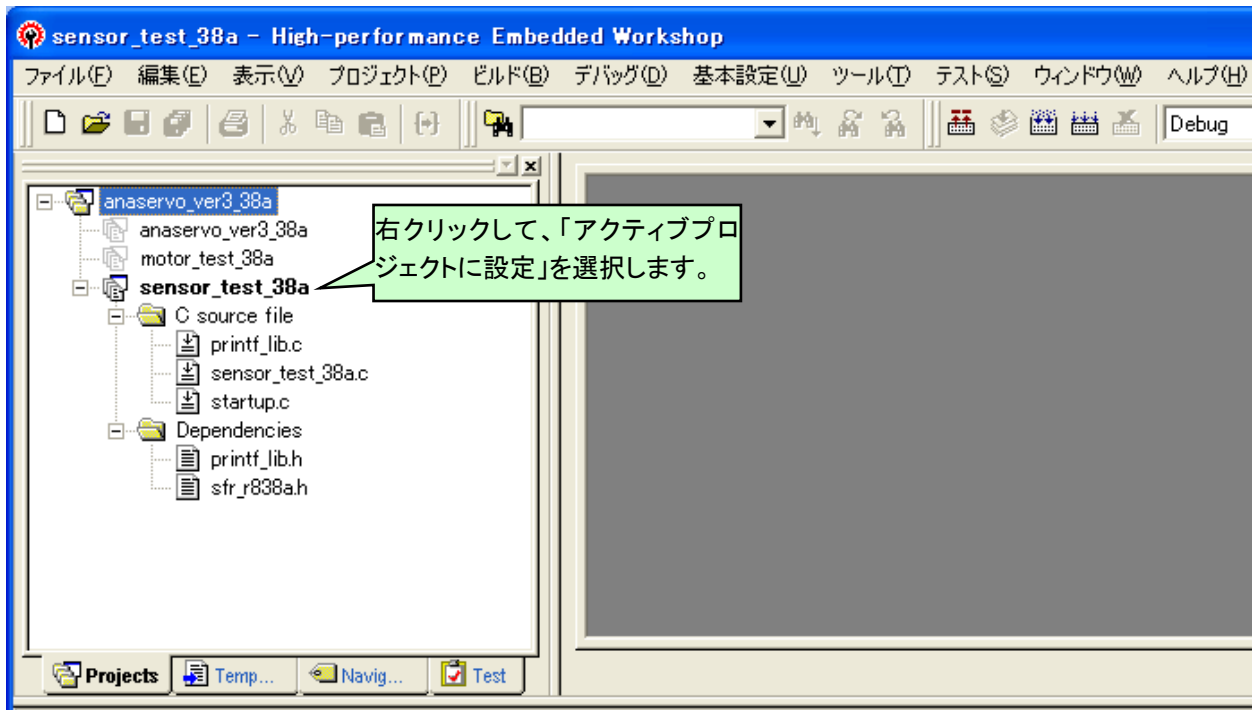
3	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="4">TypeS基板に関する資料</th> </tr> <tr> <th>基板・資料</th> <th>製作マニュアル</th> <th>プログラム解説マニュアル</th> <th>プログラム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>モータドライブ基板TypeS Ver.3 モータ5個(駆動モータ4個、自作サーボモータ1個を想定)を制御することのできる基板です。</td> <td>モータドライブ基板 TypeS Ver.3 製作マニュアル (R8C/38A版) 第1.05版 2015.04.20</td> <td>モータドライブ基板 TypeS Ver.3 アナログセンサ基板 TypeS Ver.2プログラム解説マニュアル (R8C/38A版) 第2.16版 2015.04.20</td> <td>anaservo_ver3_38a.zip 2012.06.13</td> </tr> <tr> <td>モータドライブ基板TypeS Ver.4 モータ5個(駆動モータ4個、自作サーボモータ1個を想定)を制御することのできる基板です。 ※モータドライブ基板TypeS Ver.3で使用していた抵抗内蔵トランジスタが製造中止になったため、FETに切り替えた基板です。基板外形、性能は、Ver.3とVer.4は同等です。</td> <td>モータドライブ基板 TypeS Ver.4 製作マニュアル (R8C/38A版) 第1.05版 2015.07.06</td> <td>モータドライブ基板 TypeS Ver.4 アナログセンサ基板 TypeS Ver.2プログラム解説マニュアル (R8C/38A版) 第1.02版 2015.04.20</td> <td>anaservo_ver4_38a.zip 2016.03.22</td> </tr> <tr> <td>モータドライブ基板TypeS Ver.4.1 モータ5個(駆動モータ4個、自作サーボモータ1個を想定)を制御することのできる基板です。</td> <td>モータドライブ基板 TypeS Ver.4.1 製</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	TypeS基板に関する資料				基板・資料	製作マニュアル	プログラム解説マニュアル	プログラム	モータドライブ基板TypeS Ver.3 モータ5個(駆動モータ4個、自作サーボモータ1個を想定)を制御することのできる基板です。	モータドライブ基板 TypeS Ver.3 製作マニュアル (R8C/38A版) 第1.05版 2015.04.20	モータドライブ基板 TypeS Ver.3 アナログセンサ基板 TypeS Ver.2プログラム解説マニュアル (R8C/38A版) 第2.16版 2015.04.20	anaservo_ver3_38a.zip 2012.06.13	モータドライブ基板TypeS Ver.4 モータ5個(駆動モータ4個、自作サーボモータ1個を想定)を制御することのできる基板です。 ※モータドライブ基板TypeS Ver.3で使用していた抵抗内蔵トランジスタが製造中止になったため、FETに切り替えた基板です。基板外形、性能は、Ver.3とVer.4は同等です。	モータドライブ基板 TypeS Ver.4 製作マニュアル (R8C/38A版) 第1.05版 2015.07.06	モータドライブ基板 TypeS Ver.4 アナログセンサ基板 TypeS Ver.2プログラム解説マニュアル (R8C/38A版) 第1.02版 2015.04.20	anaservo_ver4_38a.zip 2016.03.22	モータドライブ基板TypeS Ver.4.1 モータ5個(駆動モータ4個、自作サーボモータ1個を想定)を制御することのできる基板です。	モータドライブ基板 TypeS Ver.4.1 製			<p>「anaservo_ver3_38a.zip」をダウンロードして、解凍します。</p> <p>※ 「anaservo_ver4_38a.zip」も同様に動作確認できます。どちらのファイルを使っても構いません。</p>
TypeS基板に関する資料																						
基板・資料	製作マニュアル	プログラム解説マニュアル	プログラム																			
モータドライブ基板TypeS Ver.3 モータ5個(駆動モータ4個、自作サーボモータ1個を想定)を制御することのできる基板です。	モータドライブ基板 TypeS Ver.3 製作マニュアル (R8C/38A版) 第1.05版 2015.04.20	モータドライブ基板 TypeS Ver.3 アナログセンサ基板 TypeS Ver.2プログラム解説マニュアル (R8C/38A版) 第2.16版 2015.04.20	anaservo_ver3_38a.zip 2012.06.13																			
モータドライブ基板TypeS Ver.4 モータ5個(駆動モータ4個、自作サーボモータ1個を想定)を制御することのできる基板です。 ※モータドライブ基板TypeS Ver.3で使用していた抵抗内蔵トランジスタが製造中止になったため、FETに切り替えた基板です。基板外形、性能は、Ver.3とVer.4は同等です。	モータドライブ基板 TypeS Ver.4 製作マニュアル (R8C/38A版) 第1.05版 2015.07.06	モータドライブ基板 TypeS Ver.4 アナログセンサ基板 TypeS Ver.2プログラム解説マニュアル (R8C/38A版) 第1.02版 2015.04.20	anaservo_ver4_38a.zip 2016.03.22																			
モータドライブ基板TypeS Ver.4.1 モータ5個(駆動モータ4個、自作サーボモータ1個を想定)を制御することのできる基板です。	モータドライブ基板 TypeS Ver.4.1 製																					

5. 動作確認

4		<p>圧縮解除をクリックします。</p> <p>※フォルダは変更できません。変更した場合は、ルネサス統合開発環境の設定を変更する必要があります。</p>
5		<p>解凍が終わったら、自動的に「Cドライブ→Workspace」フォルダが開かれます。今回使用するのは、「anaservo_ver3_38a」です。</p> <p>※「anaservo_ver4_38a」も使用可能です。</p>
6		<p>閉じるをクリックして終了です。</p>
7		<p>「Cドライブ→Workspace→anaservo_ver3_38a→anaservo_ver3_38a.hws」をダブルクリックすると、ルネサス統合開発環境が立ち上がります。</p>

5. 動作確認

5.2 プロジェクト



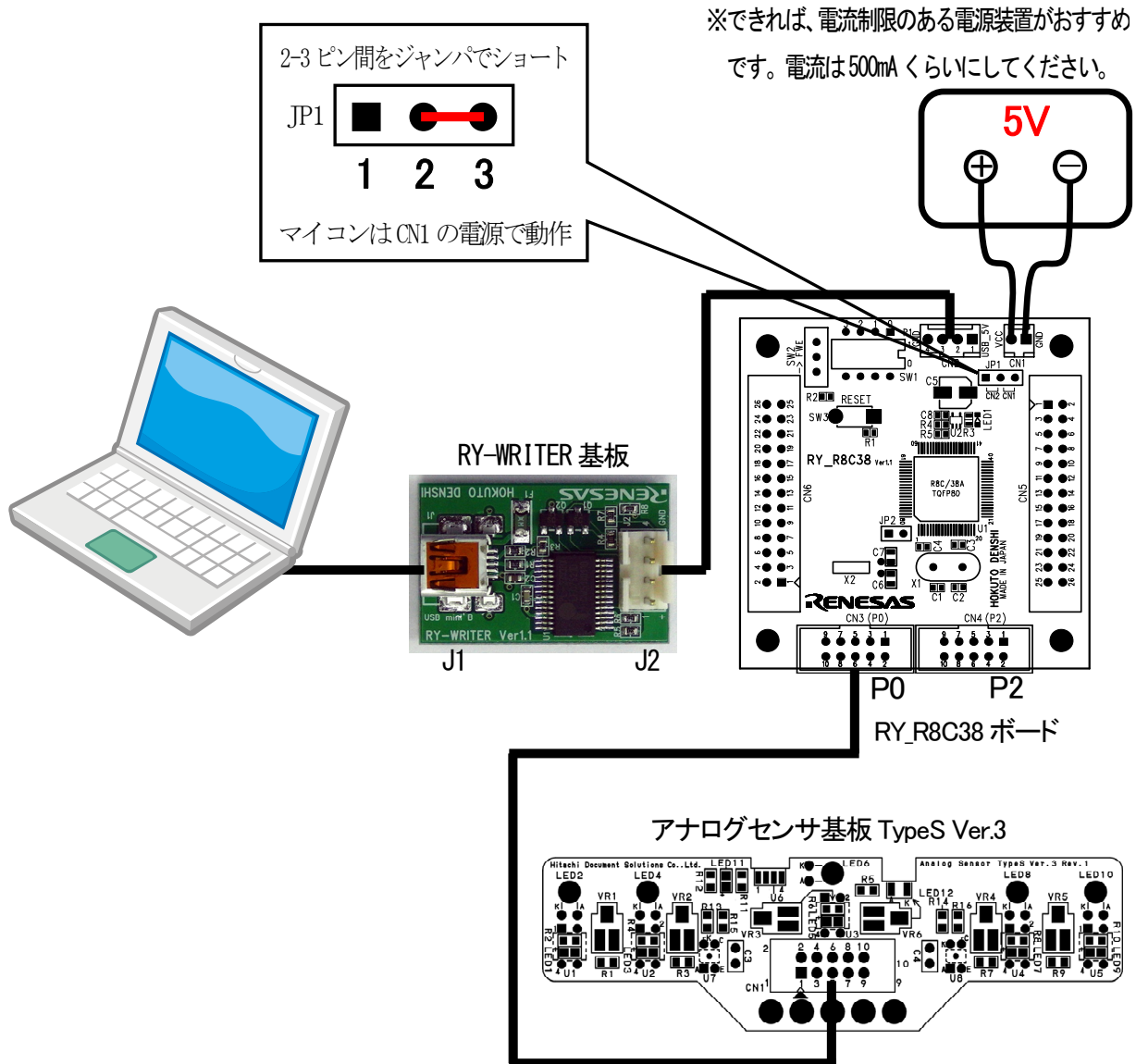
ワークスペース「anaservo_ver3_38a」には、3つのプロジェクトが登録されています。

プロジェクト名	内容
anaservo_ver3_38a	モータドライブ基板 TypeS Ver.3 と、アナログセンサ基板 TypeS Ver.3(または Ver.2)のそれぞれの基板を使った、アナログセンサ、自作サーボを搭載したマイコンカーの制御プログラムです。本プログラムは基本的な考え方のみ記述しています。実際にコースを完走させるには、各自プログラムを改造して対応してください。
motor_test_38a	モータドライブ基板 TypeS Ver.3 の動作確認用プログラムです。
sensor_test_38a	アナログセンサ基板 TypeS Ver.3(または Ver.2)の動作確認用プログラムです。 今回は、このプロジェクトを使います。「sensor_test_38a」プロジェクトを操作対象にしてください。

5. 動作確認

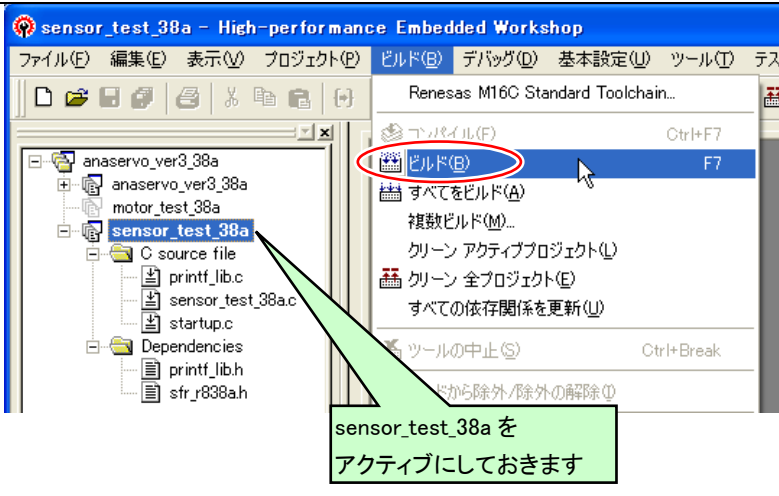
5.3 接続

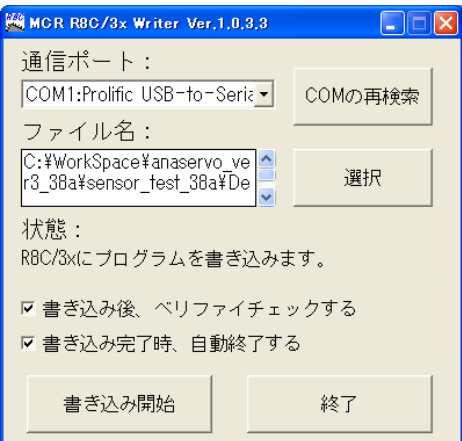
RY_R8C38 ボードのポート 0 とアナログセンサ基板 TypeS Ver.3 を接続します。RY_R8C38 ボードとパソコン間も接続しておきます。



5. 動作確認

5.4 ビルド、書き込み

1		<p>ワークスペース「anaservo_ver3_38a」のプロジェクト「sensor_test_38a」をアクティブにします。「ビルド→ビルド」でビルドします。</p>
---	--	---

2		<p>「ツール→R8C Writer」で R8C Writer を立ち上げ、プログラムを書き込んでください。</p> <p>書き込み後、RY_R8C38 ボードの電源を OFF にして、書き込みスイッチ(SW2)を内側(FWE とは逆側)にしておきます。</p>
---	--	---

5.5 Tera Term などの通信ソフトを立ち上げセンサの確認

※Tera Term(テラ ターム)がインストールされていない場合は、インストールを行ってください。検索サイトで「Tera Term」で検索すると、ダウンロードサイトが見つかります。

1		<p>Tera Term を立ち上げます。「シリアル」を選択、ポートは RY_R8C38 ボードに接続している書き込み機器のポートを選択してください。</p> <p>RY-WRITER 基板を接続している場合は、「Prolific USB-to-Serial Comm Port (COM●)」と表示されているポートです(●は番号)。選択できたらOKをクリックします。</p>
---	---	--

5. 動作確認

2	
	<p>マイコンボードの電源を入れます。上記のようなメッセージが出てきます(表示は0.2秒毎に更新されます)。1~5は下表のような内容です。それぞれ、センサを反応させて動作をチェックしてください。うまく反応しないときは半田不良などが考えられますので、速やかに電源を切って、確認してください。</p> <p>※表示が出てこない場合は、RY_R8C38 ボードとパソコン間の通信がうまくいっていない可能性があります(RY-WRITER 基板との接続など)。結線などを確認してください。</p>

①		<p>U7のアナログ値です。 0~1023の値です。 センサ下部が白色なら0に近い値が(例えば50など)、黒色なら1023に近い値が(例えば950など)が表示されれば正常です。</p>
②		<p>U8のアナログ値です。 0~1023の値です。 センサ下部が白色なら0に近い値が(例えば50など)、黒色なら1023に近い値が(例えば950など)が表示されれば正常です。</p>
③		<p>U1,U2,U4,U5のデジタル値です。表示は0~fまで16進数で表示されます。センサ下部が白色と灰色ならLEDが点くように、黒色ならLEDは消えるように、ボリュームを調整します。</p>
④		<p>U3のデジタル値です。表示は0または1で表示されます。センサ下部が白色と灰色ならLEDが点くように、黒色ならLEDは消えるように、ボリュームを調整します。</p>
⑤		<p>U6のデジタル値です。表示は0または1で表示されます。基板から4~5cm程度離れたところに白い板を置いたとき、LEDが点き、板が無くなるとLEDが消えるように、ボリュームを調整します。</p>